

◆授業のポイント◆

- I 自分の考えをまとめ、価値意識をもって表現・鑑賞できる学習活動の工夫
- II 学年や学期をまたぐ同一的な単元を接続した学習活動の工夫

美術科学習指導案

学級 3年6組 (男子19名 女子18名 計37名)

場所 第一美術室 (3年校舎3階)

授業者 教諭 吉野 一 弘

1 題 材 「手」に思いを込めて

2 題材について

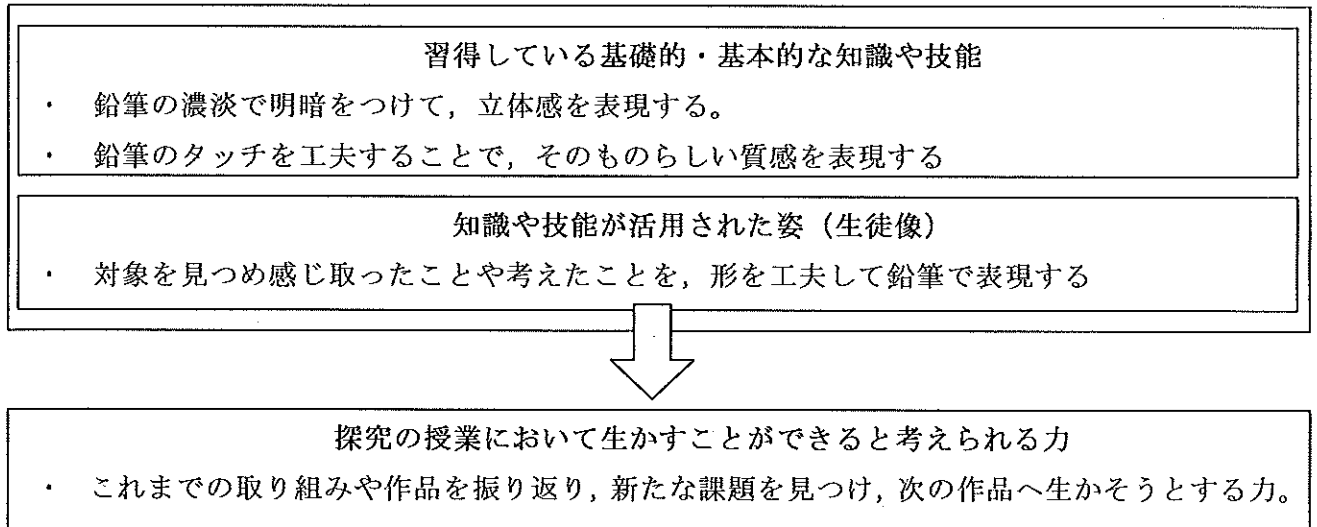
人間の手は、物を持ったり、つくったりする機能をもつとともに、顔の表情や言葉と同じように、人間の感情を表現する豊かな表情ももっている。空に突き上げた決意みなぎる手、優しく差しのべられた手、怒りに震える手など、時には人間の様々な表情を語ることがある。そのようないろいろな表情をもつ手をデッサンすることは、生徒にとって身近さはもちろん、これまで取り組んできた3分間クロッキーや定期テストのデッサンの延長としても、関心のもてる題材であると考え。そして、手の構造の仕組みをもう一度確認し、造形的なポイントをつかみながら、手の動きやポーズを工夫して、生徒の思いや考えを形にできたら、鉛筆デッサンがより楽しく取り組めるのではないかと考え、この題材を設定した。

本校3年生は、「基礎的・基本的な知識・技能を繰り返し練習する活動」として1年時から毎回の学期末テストで繰り返し、「手」のデッサンに取り組んできた。しかし、アンケートを実施したところ、「上達した」と実感している生徒は7%であり、まあまあ上達した(51%)、あまり上達してない(40%)、上達していない(2%)という結果であった。これは2年次まで「握りこぶしの輪郭の中に立体を表現する線の入れ方」を練習してきたが、クロッキーをする機会があまり取れなかったため、実際の形を描くことへの抵抗があるものと考えられる。そのため「手」のクロッキーを取り組み、おおまかな形をとる練習をさせる機会も設けた。また、今までの形が決まった基礎的なデッサンのテストから3学年の学期末テストでは自分の手をじっくり見て、形を変えて自分の感じた思いを表現できるように導きたい。

本題材は、身近な「手」をモチーフとすることで、いつでも形を考え見比べることができ、生徒にとっては取り組みやすい題材であると思う。また、生徒作品を美術室に展示し、生徒の作品の良い点を教えたり、関節の位置や肉付きや、手の内部の構造が分かる資料を提示したりすることで、苦手意識を感じている生徒への抵抗を少なくしたい。さらに、画面構成が取り組みやすいように、描く画面をA4サイズに入る正方形に近いものとした。また、デッサンは基礎的な造形力をつけるために欠くことのできない題材であるので、対象をしっかりと観察し、描写力や表現力の向上を図るとともに、根気強く努力し制作に取り組む姿勢を育てたい。さらに「手」のデッサンにおいても自分の気持ちや感情が表現できることが大切であり、気持ちを込めて表現できるよう努力させ、これまでの学習を基に、さらに観察を深め表現することを通し、光と陰や立体感などの描画表現を、より深く身に付けさせた

い。

3 習得，活用と探究の授業の関連



4 題材目標

- (1) デッサンのよさや美しさに関心をもち，鑑賞する楽しさや喜びを感じるとともに，自分が表現したい「手」について意欲的に取り組んでいこうとする。（関心・意欲・態度）
- (2) テーマに合った「手」の形や角度について，省略，強調，構成の仕方などを工夫して構想を練る。（発想や構想の能力）
- (3) テーマに合わせてデッサンの表現方法を工夫して創造的に表現する。（創造的な技能）
- (4) 作品の特徴や表現の工夫を感じ取り，言葉に表すことで，自他の感じ方・見方のよさを知り，認め合う。（鑑賞の能力）

5 指導計画 3時間扱い（本時3/3）

題 材	時間	学 習 内 容
「手」に思いを込めて	1	<ul style="list-style-type: none">参考作品（デューラー作「いのる手」）を鑑賞し，作品に込められた思いや願いを読みとる。これまでの取り組みを振り返る。自分の「手」を見て，表現したいこと（思いや願い）を考える。その表現したいことに合う形や角度を考え，クロッキーする。
	1	<ul style="list-style-type: none">クロッキーに思いや願いが表現されているか検討する。明暗やタッチなど，思いや願いのイメージを助ける方法を考える。思いや願いを鉛筆デッサンで表現する。（前半）

	1 [本時]	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆デッサン（後半）に取り組む。 グループで相互鑑賞を行い，表現意図や工夫点を発表する。
--	--------	---

6 評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分の「手」から感じ取ったことや考えたことを表現することに関心をもち，自己の内面を深く見詰め，テーマを生み出そうとしている。	自分のテーマを意識した「手」の形や角度について，省略，強調，構成の仕方などを工夫して，構成を練ろうとしている。	テーマに合わせて，デッサンの明暗による立体感や，タッチによる質感など鉛筆による表現を生かし，自分の表現とテーマに合う表現方法を工夫して創造的な表現をしようとしている。	想像力を働かせて，形やタッチ，質感などの特徴や印象，作者の心情，意図，表現の工夫について感じ取り，味わおうとしている。

7 本時の実際（3 / 3）

(1) 授業設計の工夫

ア 自分の考えをまとめ，価値意識をもって表現・鑑賞できる学習活動の工夫

- 前回の取組（「手」のデッサン）を振り返り，自分がイメージしている「思い」を表現できているかを考えさせ，よりよい作品づくりへと導く。

イ 学期や学年をまたぐ同一的な単元を接続した学習活動の工夫

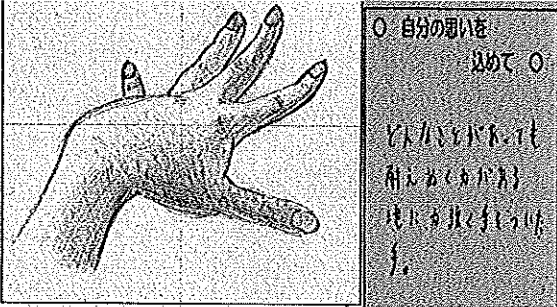
- クロッキー帳に作品を貼り，思いや願い，工夫点，改善点などを記入することで，学期をまたいでも作品を振り返り，課題の確認ができるようにする。

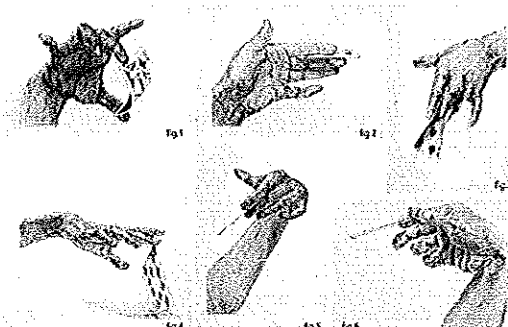
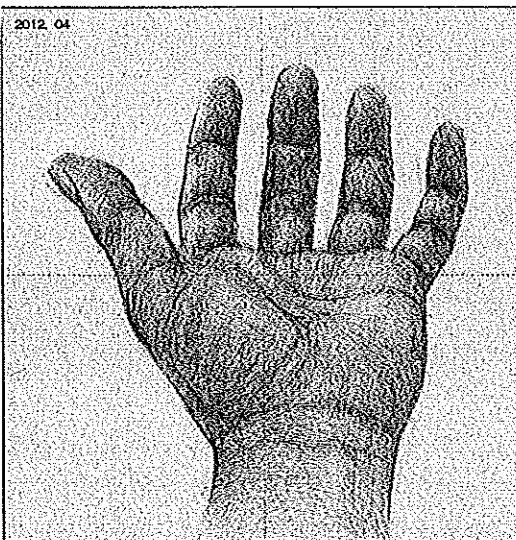
(2) 本時の目標

ア 造形的なポイントをつかみながら，自分がイメージしている「思い」を作品に表現させる。

イ 完成作品の鑑賞を通して，自分の表現したかった思いを伝え，新たな課題を発見するとともに，今後の制作意欲へとつなげる。

(3) 展開

学習過程	時間	形態	主な学習活動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業のポイント
導入	5分	一斉	1 前時の学習を振り返る。 	1 前回までの授業の流れを振り返る。 ○ デッサンの基礎・基本を押さえる。 <ul style="list-style-type: none"> 入れ方（実物大の大きさ，構図） 明暗による立体感や雰囲気 タッチを工夫して質感表現

			2 本時の学習内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 作品を完成させ、お互いの作品を鑑賞しよう。 </div>	2 本時の学習目標を確認する。
展 開	20分	個	3 作品への思いを表現することを目指し、デッサンの基礎・基本を確認して制作する。 	3 机間指導で「思い」や、表現の方向性、鉛筆の濃淡、タッチの工夫など確認したり、アドバイスをしたりする。 ○ 鉛筆の線の粗密で濃淡を作り、明暗の段階を捉え表現させる。 ◎ 造形的なポイントをつかみながら、自分がイメージしている「思い」を表現しようとしている。
	20分	グループ	4 自分の作品を思いや願い、工夫点などを含めて発表し、友達作品を鑑賞する。 	4 グループで円滑に鑑賞活動が行えるようにさせる。 ◎ 鑑賞する喜びを味わい、意欲的に発言できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どんな思いが込められているか。 ・ 明暗や鉛筆の色の調子はどうか。 ・ タッチは生かされているか。 ・ 形、角度はどうか。 ◎ 友達の考えや作品のよさに気づき、認めることができる。 ◎ 作品の改善案に気づき、助言できる。 ※ 助言を参考に、新たな課題を発見させるとともに、今後の制作意欲へとつなげる。
終 末	4分	一斉	5 本時を振り返り、感想を発表する。	5 代表2・3人に発表させる。
	1分	一斉	6 本時のまとめをする。	6 次回の制作に対する意欲を高め、自分の思いや願いを表現するために形を工夫して明暗、タッチを今後の定期テストで表現することを伝える。